



達和子(だて・かずこ) ステップス初個展である。私は達の作品を偏愛していて、この展覧会のパンフレットに寄稿した。作品を偏愛している割に、達のことは良く知らないし、何時何処ではじめて会ったかすらも覚えていない。達がどのような美術教育を受けてきたのか知らないが、確か自己流であった気がする。それがいい。どこの派閥も関係ないし、好き勝手に作品を描いている。その為か、達の作品は本当に自由である。この自由さが、私の心を掴んで止まないのかも知れない。

達は画廊内に大型の作品を五点、展示した。主題はコルセットである。しかしいずれもコルセットに見えない。なぜコルセットであるのかも不明である。しかし作品がいい。いい作品とは何が描いてあるかとか、どのように見えるかなど問題にならない。いつまでみても見飽きないのが、良い作品の条件であろう。入り口右のみが《HOUSE》である。主題が異なっても、なぜかコルセットとマッチする。

この五点で重要なのは、達は各作品、異なった素材を取って使用していることにある。《HOUSE》はキャンバスに油彩、アクリル、ミクストメディア、《CORSET》1は木にアクリル、鉛筆、《CORSET》2は紙に油彩、鉛筆、黒鉛、《CORSET》3は紙に油彩、鉛筆、《CORSET》4は紙に油彩、鉛筆である。ちなみに事務所に展示した《CORSET》

はリトグラフだ。達は普段から、多彩な材料を駆使して作品を制作している。こだわりがないのではなく、様々に試行錯誤している証拠であろう。ここにも自由がある。今回のステップスギャラリーの個展では、このような多様な作品が並び、それによってそれぞれの特徴が浮かび上がった。現代美術に規約など存在しない。それどころか一度規定した自己を壊し、更新し、脱皮し、また新しい自己に生まれ変わる。それが達である。

